

3年保育5歳児 まつ組

5歳児まつ組 計24名
担 任 田原雅代
保育補助 乙訓弘美

1 学級の実態（1月中旬）

（体を動かすことへの取組：◎ 遊び：○ 人との関わり：● 生活：☆ 学級で取り組む活動：□）

- ◎2学期半ばに始めた助け鬼を繰り返し楽しんでいる幼児が多い。同じチームになった仲間と、『相手を捕まえる役』『宝を守る役』など、役割分担しながら作戦を立てること、相手の動きを見ながら動くこと、勝敗があること、捕まったり、宝を取られたりするスリルがあることなどが要因となり、友達と一緒に繰り返し楽しんでいる。
- ◎チャレンジカードへの取組を通して、自分なりのめあてに挑戦することを楽しんでいる。繰り返しする中で、達成感を味わい、新しい課題に自分から取り組んでいる幼児が多い。また、苦手なことに自分から取り組むことは消極的であるが、教師が誘いかけると、やってみようとする幼児もいる。
- 冬季休業中、家庭でカルタやトランプ、すごろくなどの正月遊びを経験し、幼稚園でも友達と誘い合って遊ぶ姿が見られる。勝敗があることが楽しく、負けると「もう1回やろう」と呼びかけて、繰り返し楽しんでいる。
- 友達にコツを教えたり、やり方を聞いたりしながら、コマ回しに取り組んでいる。回せるようになった幼児が増え、友達とどちらが長い時間回すことができるか、競争することを楽しむ幼児もいる。
- 興味のある遊びを通して学級や学年のいろいろな友達と関わって遊ぶ幼児が多く、友達関係に広がりが見られる。
- 幼児同士が注意し合ったり、教え合ったりすることや、トラブルになったときに自分たちで、また近くにいる友達が仲裁に入り、幼児同士で解決できることが増えている。
- ☆気付いたことを友達に伝える、友達に言われて思い出して取り組むなど、自分たちで声を掛け合いながら、生活を進める幼児が多い。
- 学級の活動に意欲をもち、自分なりの考えを発言したり、力を発揮しようとしたりしながら参加している。

2 学年の重点（健やかな体の育成につながる重点：◎ 豊かな心の育成につながる重点：●）

- ◎●友達と協力したり、相談したりしながら互いのよさを認め合い、主体的に園生活を進めていこうとする。
- ◎●目的や課題をもって、生活や遊びに積極的に取り組み、最後までやり遂げた満足感や充実感を味わう。

3 学級の重点

- ◎●苦手なこと、難しいと感じることにも意欲的に取り組み、達成感や充実感を味わう。
- 年長児の自覚をもち、主体的に園生活に取り組む。
- 友達と互いに考えを出し合ったり、受け入れたりしながら、生活や遊びを一緒に進める。

3年保育5歳児 たけ組指導案

5歳児たけ組 計23名
担任 村上佳織
保育補助 乙訓弘美

1 学級の実態（1月中旬）

（体を動かすことへの取組：◎ 遊び：○ 人との関わり：● 生活：☆ 学級で取り組む活動：□）

- ◎戸外で、固定遊具や縄跳び、ボールなどを使って、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。自分なりのめあてを見付けたり、友達の姿に刺激を受けたりしながら、できるようになったことを喜び、繰り返し取り組んでいる。チャレンジカードのボールの課題には、学級の三分の一くらいの幼児が取り組んでいる。
- ◎学年の友達と誘い合って、自分たちで宝取りゲームの遊びを始めている。チームの友達と作戦を立てたり、役割を分担したりしながら工夫して遊び、勝敗を喜んでいる。相手の動きを見ながら、捕まらないように自分の動きを変えたり、『おとりになる』、『宝を守る』、『友達を助ける』など、自分の得意な動きで力を発揮したりして、繰り返し遊んでいる。
- 友達と一緒にカルタ、ウノ、トランプなどのカードゲームや、すごろくなどのお正月遊びを楽しんでいる。また、投げゴマを繰り返し練習したことで、回すことができるようになった幼児が増えてきた。友達にコツを教えたり、新しいめあてや遊び方を試したりしながら取り組んでいる。
- これまでの経験を生かし、遊びに必要な物を選び、イメージしたものをより本物らしく実現しようと工夫しながら作って遊んでいる。
- 友達関係が広がり、遊びの興味に応じていろいろな友達と一緒に遊んでいる。遊びのやり方やルールを伝えたり、互いの考えを出し合ったりしながら、よく話をして関わっている姿が見られる。関わりの中で、友達のよさや頑張っている姿に気付いて認めている。
- ☆生活の流れに見通しをもつようになり、片付けや集まる時間に気付いて動いたり、友達と声をかけ合ったりして自分たちで進めようとする幼児が増えてきている。また、当番活動や飼育物の世話に進んで取り組んでいる。
- ☆身の回りの必要なことや生活習慣はほとんど身に付いてきているが、戸外と室内を行き来する中で、手洗い・うがいをすることが忘れがちで、教師が確認するまでしない幼児もまだいる。
- ☆集団で話を聞くときに、静かに聞こうとする意識をもって教師に注目したり、周りの幼児に気付かせたりするようになってきている。
- 学級のみんで遊ぶことや、行事に参加することに期待をもち、意欲的に取り組む姿が見られる。

2 学年の重点（健やかな体の育成につながる重点：◎ 豊かな心の育成につながる重点：●）

- ◎●友達と協力したり、相談したりしながら互いのよさを認め合い、主体的に園生活を進めていこうとする。
- ◎●目的や課題をもって、生活や遊びに積極的に取り組み、最後までやり遂げた満足感や充実感を味わう。

3 学級の重点

- ◎●基本的な生活習慣や、あいさつ・返事の仕方が分かり、自分から行う。
- ◎いろいろな動きに自分なりに挑戦したり、友達と一緒にルールのある遊びに取り組んだりしながら、体を動かす楽しさを味わう。
- ◎●身の回りの環境に進んで関わり、気付いたことや感じたことを自分なりに表現して楽しむ。
- 年長児としての自覚をもち、年下の幼児の世話をすることや、小学生や地域の方との交流を通して、いろいろな人と関わる楽しさを味わう。

4 期のねらい (16期 1月～3月)

- 生活に見通しをもって主体的に取り組み、友達と協力してやり遂げた満足感を味わう。
- 学級のみんで動く中で、互いの成長を感じながら園生活を十分に楽しむ。

5 本時のねらい

- 短縄に親しんだり、楽しんだりしながら、いろいろな動きをする。
- ルールを守ってドッジボールに参加し、ボールを投げたり、逃げたりすることを楽しむ。

6 研究主題との関連

研究主題に迫るための工夫点・具体的手立て

研究主題

「豊かな心と健やかな体の育成」 一体を動かして遊ぶことが大好きな子どもを育てる

【短縄を使った遊び】

- チャレンジカードでの前跳び、後ろ跳び、二重跳びなどの取組には、個人差が大きい。そこで、縄への親しみを増し、苦手意識を減らすことで、次第に“跳ぶ”ことへの興味や意欲を高められると考え、本時の活動を設定した。
- 大がかりな場の設定がなくても、遊び方を知ることで、幼児が自分から縄を用いて、多様な動きを経験することにつながる。

【ドッジボール】

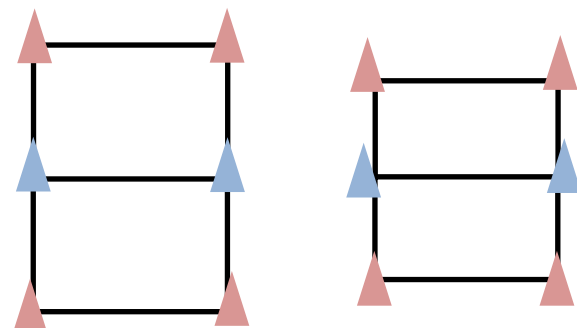
- 今の幼児の実態から（ボールを狙って投げたり、ボールをキャッチしたりすることには個人差が大きい）、従来のルールのドッジボールでは、外野になった幼児はボールを待つことが多くなり、運動量を十分に確保できない。そのため、ルール（遊び方）を工夫し、
 - ・内野のみで行うことで、ゲーム中に十分な運動量を確保することができる。
 - ・ボールが当たったかどうかを、帽子の色を変えて視覚的に分かりやすくする。
 - ・リレーや宝取りゲームなど、チームで勝敗がつくことを喜んでいる実態から、一人一人の動きを楽しみながら、同じチームの仲間とのつながりや意識をもてるように2チーム対抗にする。

<ルール>

- ・緑チーム、白チームの2チームに分かれる。
- ・外野はなし、内野のみで行う。
- ・ボールが当たったら、帽子の色を替える。
(一度当たったら、それ以降当たっても替わらない)
初めにいた陣地のままゲームを続ける。
- ・ボールに当たらなかった幼児が多い方のチームが勝ち
(元々の帽子の色で判定する)

<環境図>

場所：体育館



- ・コートの手前や中央のラインが分かりやすいよう、ラインテープで線を引いておき、目印の三角コーンを置く。
- ・チームの人数に応じてコートの大きさを調節する。

7 展開

ねらい達成のための教師の援助

時間	幼児の活動	指導内容	教師の援助
12:40	○戸外や室内で好きな遊びをする ○片付ける ○保育室に集まる ・うがい、手洗い、排泄をする ・体育館へ行く	・友達と誘い合って遊ぶ ・自分のめあてに向かって取り組む ・使った遊具を片付けたり、ゴミを拾ったりする ・時間に気付いて動く ・階段の約束を守って歩く	・チャレンジカードやコマなど、自分のめあてに向かって取り組む姿を励ましたり、認めたりする。 ・幼児の遊びの場が重ならないように、場の使い方を知らせていく。 ・片付けのやり残しがあったときには、幼児が気付くように声を掛けたり、つぶやいたりする。 ・右側通行や静かに歩く約束を守って、移動する姿を認める。
12:50	○短縄を使って、いろいろな動きをする ・体を伸ばす ・縄で体をくぐらせる ・前後左右に跳ぶ ・両足連続飛び越しなど ○短縄をしまう	・縄を短く持ち、体の周りを通す ・バレリーナ、エビのポーズ ・友達と手をつなぎ、輪にした縄で体をくぐらせる ・数本の縄を一直線上に続けて置き、足を揃えて跳ぶ ・縄を床に置き、前後や左右に足を揃えて跳ぶ など ・短縄を結んで片付ける	・教師が見本を示したり、幼児のよい動きや工夫している姿を声に出して認めたりしながら、短縄を用いたいろいろな動きを経験できるようにする。 ・動きのポイントになること（足を揃える、縄を踏まないようにする、動かす体の部位など）を知らせる。 ・音楽をかけ、楽しい雰囲気の中で動くことができるようにする。 ・必要に応じて、互いに楽しく遊ぶためのルールを考えられるよう、投げ掛ける。 ・結ぶことが難しい幼児には、教師が手を添えたり、友達に教えてもらうように促したりする。
13:05	○ドッジボールをする ・教師の話聞く ・2コートに分かれてドッジボールをする	・相手チームの幼児を狙ってボールを投げる ・ボールに当たらないように逃げる ・ボールに当たったら帽子の色を変える ・ゲームの勝ち負けが分かる	・前回の姿を振り返り、友達のよい動きや課題となることに気付かせ、自分なりに意欲をもって取り組めるようにする。 ・2コートを設定し、幼児が選ぶことができるようにする。(ボールが速いスピードでも平気な幼児/抵抗のある幼児) ・教師は審判役になり、幼児がボールに当たっていても気付いていないことを知らせたり、ルールを確認したりする。
13:25	○集まる	・自分の気付いたことを話す ・教師や友達の話聞く	・ゲーム中、モデルとなる幼児の動き（ボールの投げ方、逃げ方など）を声に出して認め、幼児が意識をもてるようにする。
13:35	○保育室に戻る ・手洗い、うがいをする	・手洗い、うがいや水分補給をする	・幼児と一緒に帽子の色の数を数え、ゲームの勝ち負けが分かるようにする。 ・短時間で区切りながら、繰り返し遊ぶことができるようにする。

13:50	<ul style="list-style-type: none"> ○学級で集まる ・歌を歌う ・絵本を見る ・当番の交代をする ・明日の話聞く ○降園準備をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級のみんなと歌ったり、絵本を見たりする ・みんなに聞こえる声で、翌日の当番の発表をする ・教師の話聞く ・翌日の登園に期待をもち、降園する 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの声が合わさる心地よさに共感し、歌を歌う楽しさを感じられるようにする。 ・一人一人が物語の世界を楽しめるよう、落ち着いてから読み始める。 ・学級全員に聞こえる声の大きさや、話の聞き方に気付かせる。
14:20	<ul style="list-style-type: none"> ○降園する 		<ul style="list-style-type: none"> ・階段や廊下の歩き方を認め、一人一人が落ち着いて降園できるようにする。

8 評価

○短縄に親しんだり、楽しんだりしながら、いろいろな動きをしていたか。

○ルールを守ってドッジボールに参加し、ボールを投げたり、逃げたりすることを楽しんでいたか。

